

## 平成29年度第2回府中市立図書館サービス検討会議議事録

日 時 平成29年10月31日（火） 午前10時から11時30分まで  
会 場 ルミエール府中5階会議室  
出席者 夏目雅裕委員、栗原浩英委員、吉川佐和子委員、三宅昭委員、  
山本有佳子委員、加藤恵子委員、須山優子委員  
事務局 酒井図書館長、青木図書館長補佐、田邊サービス係長  
菅沼、田代、金崎（記録）

### 1 配布資料確認

### 2 議題

#### (1) 第4期子ども読書活動推進計画（案）について

酒井館長：おはようございます。平成29年度第2回府中市立図書館サービス検討会議を開催いたします。お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日の議題は第4期子ども読書活動推進計画（案）についてです。また、その他といたしましては、(1)で府中市立図書館一斉休館について、(2)で市政情報センターでの取次状況についてです。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。なお本日の会議は瀧田様からやむを得ないご事情で欠席するとの連絡を受けておりますのでご報告させていただきます。それではこれ以後、進行を夏目議長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

夏目議長：おはようございます。それでは第2回サービス検討会議を始めさせていただきます。議題の第4期子ども読書活動推進計画（案）について事務局からの説明をお願いします。

青木補佐：はい、議長。それでは、お手元の資料、第4期子ども読書活動推進計画（案）をご報告いたします。

恐れ入りますが、1ページをご覧ください。第1章の計画の策定につきましては、まず、1の計画策定の目的でございますが、「市と市民が手を携えて、子どもの読書環境をより一層整備することにより、子どもが本を楽しみ、読書する力を身につけ、個性豊かで、健やかに成長し、人生をより豊かに生きること」を目的に、平成15年度に府中市子ども読書活動推進計画（いわゆる第1期計画）を策定し、第3期計画まで取り組んで参りましたが、今年度でその第3期計画の期間が終了することから、引き続き、本市における子どもの読書活動の総合的かつ計画的な推進を図るため、第4期府中市子ども読書活動推進計画（案）を作成するものでございます。

2の第3期計画の成果、3ページの3のアンケート調査結果を踏まえた、5ページの4の今後の課題と方向性でございますが、課題としては、子どもたちへの多様な読書のきっかけを提供できる読書環境の充実が主たるものと考えております。また、方向性としては、子どもが読書習慣を身につけるためには、本や読書に関わる事業の認知度を上げていく必要があると考えております。新たな点としては、1か月に1冊も本を読んでいない児童・生徒の割合（いわゆる不読率）が、現状では小学生4%・中学生9%でございますので、この不読率を小学生1ポイント・中学生2ポイント減らすことを数値目標として新たに設定して参ります。

続きまして、7・8ページをご覧ください。第2章の計画の基本的な考え方につきましては、3の計画の視点としまして、記載のとおり7つの視点を持って取り組んで参ります。4の計画の期間は、第3期計画までの5年から、第4期計画では、平成30年度から平成35年度までの6年間といたします。5の計画の対象は、0歳からおおむね18歳までの子どもとその保護者を対象とします。

続きまして、9ページをご覧ください。第3章の計画の目標につきましては、  
1 子どものための読書環境の拡充、2 子どもと本との出会いの機会の提供、  
3 読書推進体制の整備、4 人材の育成・活用及び5 啓発・広報とし、5

つの目標を設定いたしました。そして、10ページから19ページは、それぞれの目標に沿って、各担当部署や具体的な取組内容について、記載しております。今回の計画（案）において特に重点的に取組む内容といたしましては、子どもと本との出会いの機会の提供において、13・14ページに記載のとおり、学校における本との出会いの取組は、ア～エのとおりでございます。学校での本と出会える機会の環境づくりの取組について充実して参ります。

また、18ページに記載のとおり、子どもだけでなくその保護者も対象に、読書の意義や楽しさについて啓発し、子ども読書の日に合わせて「おはなしいっぱい」などの読書活動に関する事業の情報提供の取組について拡充して参ります。

続きまして、20～22ページをご覧ください。第4章の取組項目の担当と今後の展開といたしまして、本計画に基づき実施します各事業の取組及び担当部課を記載しており、これらの事業につきましては、毎年、進ちょく状況を確認し、PDCAサイクルにより事業展開に反映させて参ります。

なお、23ページ以降につきましては、参考資料となっております、アンケートの集計結果や活動事例等を記載しております。

最後に、今後の予定としましては、平成29年11月27日から同年12月26日までの期間でパブリックコメント手続を実施し、皆さまからの意見等を反映させた計画として取りまとめて参ります。

以上でございます。

夏目議長：ご説明ありがとうございました。1ページの第1章の府中市子ども読書活動推進計画の目的については、第3期とほぼ同じ内容だと思います。大きく変更されたところは計画の期間がこれまでは5年間だったのが、第4期は6年間になったというところです。子ども読書についてのアンケートの対象を小学6年生から小学5年生にすることにより、5年後の中学2年になった時、再度同じ生徒にアンケートをとり、その結果を1年かけて検討できるようになると伺っております。その点は非常に大きな進歩だと思います。次に第3期の成果として（1）の市立

図書館の取組の中で「おはなし会」、「ちいさい子のためのおはなし会」、「土曜おはなしの森」、「よむよむ探検隊」、学校への団体・学級貸出、市民を対象に「読み聞かせ講習会」、「ステップアップ講座」、ヤングアダルトコーナーの充実などの取組をされてきたということで、様々な企画を努力されて進めてこられているというのが私の感想です。こちらの部分について、ご意見ありますか。あるいは日頃お感じになっていることなどありましたらお聞かせください。

三宅委員：最近目にするスマホを使用しての学習について、今後どのように図書館も関わって育成していくのでしょうか。中々難しい問題で方向が見えていないのですが、ある程度方向付けをしていただいた方がいいと思います。図書館でもパソコンを使用していますので、そういう点ではプラスアルファになるのではないかと考えております。

夏目議長：皆様、ご意見ありますか。スマホというといつ遊びに使われているのかなと思われがちだと思いますが、案外そうでもないのかなという感じもします。その辺りを上手く使える状況ができるといいですね。

三宅委員：そうですね。スマホを遊びとして使っている場合もありますが、お互いの情報交換や学習をするという意味で使っている様子が見られますので、意外と馬鹿にできないと思っております。

夏目議長：小学校や中学校では学校での使用は難しいと思いますが、私の大学の事例でいいますと、先生によって反応が様々です。今は基本的にプロジェクターで投影したものをスマホで撮りますが、昔はそれをメモ書きしていたと思います。あるいは講義で分からないことがあると直ぐ調べるようにと言う先生のいる一方で、それは記憶に留めておいて講義中は自分の話を聞きなさいという先生もいらっしゃいます。たぶん教員の側も今すごく振れが大きいような状況だと思います。

栗原委員：講義中にスマホを使用しないように言っています。そのかわりレジュメなどを配布しています。本当は調べているのかもしれないが、講義をしている側から見ると、遊んでいるように見えるのですよね。

夏目議長：ご家庭ではどうでしょうか。

山本委員：パソコンを使った教材などがでていますし、ゲーム感覚の延長で勉強ができるから楽しくなってしまう、どんどん進められるというメリットはあると思います。ただ、書くことが無くなってしまいうということがとても心配です。

須山委員：私たちの時代は分からないことがあったら辞書で調べなさいと、親や学校の先生に言われていましたが、今は直ぐに調べられてしまいますね。辞書で調べることが必要なくなっていることに、それでいいのかなと思っています。丁度、過渡期なのですかね。当たり前のようにスマホを使っている年代が子育てをしたら、私たちの世代がやっていたことは忘れられていきますが、それに対応していかなくはいけません。今、0歳から2歳までのお子さんの広場に行っています。その中でお母さんが簡単な工作をして子どもと一緒に遊ぶというコーナーがありますが、工作で描く絵さえも自分ではなくスマホから検索して描いている方もいます。

三宅委員：学校教育の中でA I やパソコンを使ったI C Tの中身と、一般の先生が教える、例えば手で文字を書きなさいという行動はどのようにして振り分けて教育されているのでしょうか。文字を書くという動作は必要だと思っています。

須山委員：先生方の言葉の中にはご自身の強調したい思いが入っていると思います。そして聞く側もそれを感じ取っている、そこが、生の声で聞く魅力だと思います。

夏目議長：難しいですね。1つは答えを直ぐに求めたがる場所があると思います。答えが分かればそれでいいという傾向というのはすごく困ったものだと思います。私は学生たちへレポートを書くように言っていますが、レポートも結局調べたものを並べて、あとは自分の感想が少しあるだけということになってしまっています。少し大袈裟かもしれませんが、自分で考えて新しいものを創る、そういう行為をやるという場所がすごく少なくなっていると思います。いかに速く短い解答で言うかで終わってしまうと、長い文章を論理的に考えて書いていくという力はどんどん落ちていく気がします。

吉川委員：小学校では全国の学力調査をやっているんですけど、今年の結果がでてきているのですが、やはり府中市全体でも全国や東京都と比べて書く力が落ちています。色々

な情報や必要なものを取出す力が国語の中で落ちていきます。他の分野は東京都よりも上の結果になっています。学校としても自分の考えを深めて表現する、必要な情報を取出していくというところを授業の中に取り入れています。インターネットの情報は決して確かなものではないということを、繰り返し子どもたちに話しをしているところです。

山本委員：色々な情報があり、ネットでも本当に正しいものと少し疑わしいものがあります。何千件という件数があるので全部見ることはできず、結局一番上にでてきた情報ばかりを見たりしてしまいますよね。自分の能力で正しい情報なのか判断をしなくてはいけないのですが、その能力が育っていかないのではないかなと思っています。今は調べると直ぐに答えがでるけれど、昔は、これはどの本で調べればいいのか、誰に聞いたらいいかと、色々考えて答えを出していました。その過程が無くなってしまうことはこれから不安です。

夏目議長：学校の調べ教育などで、図書館の利用を促すことはされているのでしょうか。

吉川委員：ICTの普及の流れの中で、学校内にタブレットが入ってきています。来年あたりから各教室に1台はタブレットを置く状態になってきます。やはり子どもたちはこちらが何も言わなければ、インターネットで調べると思います。学校図書館で百科事典を使って調べることは行っていますが、若い教員との世代間の差があるように思います。

須山委員：今、本当に時代の過渡期ですね。それぞれの良さを取入れていい方法が見つかるといいですね。

栗原委員：寄り道することで色々な事を学んで、選択していく、無駄な事も大事であるということを教えていく必要があると思います。スマホについては一概に否定しませんが、欲しいものが直ぐ検索できて、情報がダイレクトですよ。

夏目議長：先程、辞書の話がでしたが、辞書を見ていると、目的の言葉以外にもその過程で予期しない言葉の発見もあると思います。また、図書館で本を選ぶ時も目的の本以外にも本を見ている過程で、別の面白そうな本を見つけることもあると思います。図書館の発見の面白さや楽しさは非常に大きいと思うので上手く

活かせるような企画ができると思います。

栗原委員：講義の話もでしたが、私は大学時代の恩師について2種類のタイプがいて学生に話しています。1つ目は先生の話が指標になるタイプ、2つ目は先生が選んでくれたテキストが指標になるタイプです。先生が話してくれたことを40年以上経ってもまだ覚えていることもあります。それが今、私の学問の基礎になっているので、余計な話しに思えることも大事なのだと思います。

夏目議長：それが面と向かって話している講義の重要さですね。テレビなどのように一方的に流される情報ではないことの重要さですね。

加藤委員：目の不自由な方に対面朗読をしているのですが、今時はスマホやパソコンでも有償、無償に限らず、色々な本の内容が簡単に手に入ります。プロが入れたものもあります。ボランティアの方たちのレベルのものをあえて聞かなくても、情報としての本の内容が欲しければいくらでもあります。それなのになぜボランティアの方に聞かせてもらっているのか、という話を聞いたことがあります。音楽会と一緒に聴きに行っているそうです。色々なレコードやテレビや一流アーティストの音楽がいくらでも手に入るけれど、その場の雰囲気や人達の感情、ちょっとしたハプニングなど、そういうものが楽しくて、生演奏をわざわざ聴きに行っているそうです。情報はその情報だけを追い求めていくのか、その情報にまつわる新たな情報も求めるのか、ただ情報を得るだけだったらいくらでも簡単にできると思います。読書の目的や楽しさを言うとき、それは単なる情報ではないですよね。そういった意味では府中市が読書の楽しさを全面的に啓発していることはすごくいいことだと思います。

夏目議長：それに関連して、参考資料の49ページから美好保育所のおはなし会、北山保育所のおはなし会について記載があります。こういうところに参加されると面白いと思います。51ページからの赤ちゃん絵本文庫、おはなしキャラバンなど、ボランティアの方も沢山協力してくださって、いい企画がいっぱいあると思います。これを更に宣伝して多くの人に来ていただくのと同時に、発信する側にもなっていただきたいなと思います。この辺りはいかがでしょうか。

栗原委員：府中市はすごく真面目に読書活動をされていて、本当によく取組まれているなと感じています。他の自治体はどうかでしょうか。

夏目議長：他の自治体の取組はご存知でしょうか。

須山委員：子どもの本についてですが、『読み聞かせに向く絵本のリスト』や『とっておきの本・100さつ』など、府中市は本のリストを作成されていますね。他市の図書館を見せていただくこともあります。府中市のリストは本当にすごく分かりやすく、テーマについての内容まで記載してあります。そこまで記載のあるリストは中々無いです。子どもの本に携わる者にとってはすごく親切だなと思います。おはなし会についてですが、1回きりの単発のおはなし会ではなく、例えば10回シリーズにして行えばお母さん同士が顔見知りになることができ、お互いの育児についても話ができるようになると思います。次回のテーマについて企画するときも考えやすいと思います。赤ちゃん絵本のおはなし会はあるのですか。それは1回きりですか。シリーズですか。

事務局：1回きりです。参加の方はその日にいらっしゃった方です。

須山委員：幼児や小学生はお稽古事などで忙しい子が多くなりますが、赤ちゃんはまだお稽古事などが無い時期だと思うので、親御さんの都合で参加しているようです。シリーズで参加するおはなしやわらべ歌の会があったらいいのではないかと思います。

夏目議長：このようなおはなし会の開催案内はホームページと広報に掲載されるのでしょうか。

田邊係長：はい。ホームページや広報以外にも学校、幼稚園、保育園へ年間の案内をお配りしています。

夏目議長：11月に図書館一斉休館があり、その時にホームページのリニューアルをされてスマホ対応になるというお話を伺っております。それに伴い、より一層広報することができれば参加者が増えるのではないかと思います。

酒井館長：先程51ページを紹介していただきました。赤ちゃん絵本文庫では首が据わらないような小さい子に絵本を見せます。はっきり言って内容は分からないと思

ます。私が考えるには、赤ちゃんに見せる以上にお母さんに見せて、少しでも赤ちゃんが絵本を見て反応してくれたということをお母さんに記憶していただきたいと考えています。こういう絵本を見せるとこういう反応があつて、成長にいいのだなと思ってもらえれば、きっとお母さんがこの絵本を借りて読み聞かせをしてくれると思います。そして1年2年3年経ち、徐々に自分で見るようになり、それが小さい頃からの本の親しみに繋がっていくのではないかと考えています。

4ページの(1)小学生が本を読んでもらうことに対する意識というところで、「本を読んでもらう事は好きですか?」という設問に対して「好き」と回答した小学生は28%で前回は18%でした。前回に比べて数字が上がっているということは地道な活動が効いている、役に立っている、影響しているのではないかと考えています。先程、学習に関してということでお話ができましたが、全国学力学習調査の結果がありまして、その中に「読書は好きですか?」という設問があり、「読書が好きだ」と回答している小学生、中学生の方が学力テストの正答率が高いという分析結果がでています。本が好きな子は正解に近づける道があるのではないかという結果もでております。これにつきましては10月19日の教育委員会で、教育委員からもこのような調査結果があるのでそれを計画の中に取り入れたらどうかという意見をいただいており、付け加えさせていただきました。今後は議会に報告して、その後パブリックコメントで市民の意見を聞いて、案ではなく正式な計画となります。そして再度、教育委員会に提出して議決していただき、さらにまた議会に報告して、来年4月からの第4期計画ができていくという流れになっております。前回5年前の時もパブリックコメントはかなり沢山の意見をいただいております。市民の方の意見を沢山いただいていい計画にしていきたいと考えております。他市の状況についてのお話がありましたが、26市は全ての市で子ども読書計画があります。東京都の計画を元に各市作成していますので、ほぼ似たような内容になっています。他市でも子どもたち向けのイベントや事業が沢山あります。ほぼ同じ活動をしているのが現状です。

山本委員：読書をする子の成績が良いということはわかります。例えば問題を読み解く力

が無いとまず答えには至らないと思います。ただ、それをあまり前面には押し過ぎて欲しくないと思います。子どもは勉強のため、頭が良くなるために本を読むのかと思ってしまい、本を単純に楽しむという感覚が無くなってしまいます。その辺りの言い方については少し気をつけて欲しいと思います。

夏目議長：楽しさが無いと読書は進まないですね。直裁的に見てわかるものではなくて文字を読んでイメージするなど、そういうところを育てて欲しいです。そこからそれぞれの個性やアイデアが出てくるのではないのでしょうか。そういう意味では赤ちゃん絵本文庫はお母さんが子どもの顔を見て印象がわかるのですごくいいことだなと思います。

須山委員：赤ちゃんとお母さんは一体なので、お母さんが笑顔になると赤ちゃんも一緒になって笑顔になる、お母さんが喜んでいればこれは面白そうだなと、3ヶ月位の子から反応しています。今は、お母さんだけでなく、祖父母も一緒に参加される方がいます。祖父母世代は、時間的な余裕もあり積極的です。皆で育てていく、という時代の流れを感じます。

吉川委員：5ページの小学生の図書館の利用率が低下しているというところが気になっています。不読率を小学生で1ポイント、中学生で2ポイント減少させたいという記述があります。小学生が学校の図書館は利用するけれど、市立図書館は中々利用しないというお話もあります。私の孫が通っている保育園では、3歳児から保育園で地域の図書館に行っています。2週間に1回くらい行っているようです。自分で本を1冊選んで借りられるのでとても楽しみにしています。その本は家には持ち帰らず、保育園でお友達と見えています。本をあまり読まない子どもたちは、やはり保護者が忙しい状況だと思いますので、保育園や幼稚園が園として地域の図書館に行くという取組があるといいと思います。本を選ぶことは楽しいことということが小学校入学前から体験できると、自分から行ってみようかなと思うのではないのでしょうか。3年生位までは図書館に行っているけれど、4年生以降になると色々なことが忙しくなり、中々利用率が上がっていかない現状があると思うので、そういう取組があってもいいのではないかと思います。現在、市立の保

育所や幼稚園で図書館へ行くことはあるのでしょうか。

酒井館長：絵本自体は各園にある程度の冊数が置いてあり、先生が絵本を読んで聞かせています。不要になった本をダンボールに入れて持ってきてくださる方もいらっしゃいます。各園で地域の図書館に先生が子どもたちを引き連れて行くとういうことはあまり聞いたことはないですが、市内12館ありますので、近ければある程度利用している園もあるかと思います。

吉川委員：図書館に行くという経験が大事なのではないかと思います。すでにある本を読むのとは全然違うと思います。園児は騒がしいところもありますが、図書館のマナーも学べると思います。

夏目議長：園の外へ行くというイベント感や自分の意思で選ぶというところがいいと思います。

山本委員：休日に図書館に行きたいと言うようになれば、親と一緒にいく機会も増えると思います。学校には貸出用カードがありますが、同じように園単位で作成していただけるのですか。

酒井館長：団体貸出しで作成しています。

須山委員：素晴らしいことだなと思いました。色々な本を並べていると子どもたちは自分で選ぶことがすごく楽しいようです。そういう働きかけもしていただけたらと思います。

加藤委員：保育園や幼稚園の本はあくまでも保育園、幼稚園で購入しているのですか。

酒井館長：保育園や幼稚園で購入しています。市の図書館とは切り離されています。

加藤委員：大きく成長して行動範囲も広がってくると、子ども自身が図書館に行って本を借り、更に深い読書の楽しみが増えると思います。その最初のとりかかりとしては、やはり赤ちゃんのときからお母さんと一緒に本に触れるということが大切だと思います。赤ちゃんを連れて図書館にきてもオムツなどの荷物をいっぱい抱え、更に本を借りて帰るといのは、お母さんにとってはとても負担だと思います。孫の通っている保育園には図書コーナーがあり、そこには絵本が30冊位あります。保育園で購入しているので頻繁に新しい絵本を買うことはできないようで、

4、5歳位になるとみんな読んでしまったという感じです。なるべく子どもを本に関わらせてあげるという意味では保育園などで図書ノートを作成して、お迎えにきたお母さんと子どもと一緒に本を選び、借りて帰るということができると思います。本に触れる機会が増えるのではないのでしょうか。そのような取組があると本や読書に興味のないお母さんも他の親子の様子を見て、借りてみようと思うかもしれません。図書館に行くことも、読み聞かせに参加することも大事ですが、もっと身近な保育園や幼稚園の場を通して、子どもと一緒に本に親しむ機会があるといいなと思います。それが徐々にステップアップして、今度図書館へ行ってみようかとなるのではないかと思います。やはり本の管理などで難しいのでしょうか。

田邊係長：本につきましては、年に1回リサイクルとして図書館で大量に本を提供しています。公立の小学校、中学校、学童クラブなどの職員に図書館へ来ていただき、本を選んでいただいて、新たな本を各施設に置いていただくようにしていただいています。リサイクルなので図書館から貸しているというわけではなく、各施設でご利用に使っていただいています。

須山委員：図書館に行くという行為がとても大切だと考え、私は勧めたいと思います。身近なところだと本の種類も限られてしまいます。でも図書館に行くと私たちでも目を見張るぐらいに色々な本がありますね。幼児、赤ちゃん向けの本が沢山あるので是非勧めたいと思います。

酒井館長：できるだけ沢山の方に来ていただけるよう啓発していきたいと思います。

須山委員：利用カードは赤ちゃんから作れるので、生まれてすぐに孫も作っていただいて、親が喜んでいました。

夏目議長：48ページに記載の学校図書館システムの導入とは、市立図書館とどのような関係でしょうか。市の学校に対する取組ということですね。

田邊係長：学校図書館内の本の管理のためのシステムと聞いています。

吉川委員：全校に導入されると、各小中学校間での所蔵状況の確認が可能になります。中央図書館とも繋がるシステムと聞いていますが、まだそこまでいっていません。

全てが繋がると大変便利になりますが、莫大な作業や費用がかかります。同じ本を授業で読みたい時、40冊を集めて用意することが瞬時にできるようになります。

夏目議長：同じく学校関係ですが、2ページの学校図書館の取組の中で、それぞれの学校で司書の方やボランティアの方が本の整理をしてくださっています。そういう方たち相互の、あるいはそういう方たちと市立図書館との意見交換の場というものはあるのでしょうか。

吉川委員：学校図書館の研修会はあります。ボランティアの方の横の繋がりもあるようです。

夏目議長：そのような場で、ある学校での企画が話題になって広まるというようなことはありますか。

山本委員：市内小学校の図書関係のボランティアの会合が年に1回あります。お互いに活動内容について話し、参考に取り入れたり、改善したりしています。

吉川委員：ボランティアの方たちは非常に熱心です。

山本委員：熱心な方は熱心です。熱心な方は読み聞かせ、学校図書のボランティア、貸出図書のボランティアもしますが、全然関わっていない方もいます。その辺はやはり学校ごとや学年ごとに少しカラーが違っているので、試行錯誤しながら協力し合いながら活動しています。でも継続できているということは、やはり熱心な方がずっといらっしやっているからです。

加藤委員：それはPTAの活動と関係しているのですか。

山本委員：学校によります。白糸台小学校では学校のPTAの仕事の1つに読み聞かせがあるということを知ったことがあります。十小はボランティアです。本当に活動したい人だけが活動している感じです。学校によって違うと思います。

加藤委員：学校図書に関わるボランティアをしたいと思っても、自分の子どもたちが学校に在学していないと、学校がすごく遠く感じてしまいます。時間も関心もあって、孫を通して学校図書へ関わっていきたいという方は恐らく沢山いらっしやると思います。

山本委員：十小では近所の高齢の方や卒業された生徒のお母さんが、地域の方として活動してくださっています。

加藤委員：自治会でボランティアの募集をしたりするのでしょうか。

山本委員：特に貼紙を掲示したりなどはしていないので、それぞれ個人で参加しています。

加藤委員：PTAもすごく忙しいので大変ですね。地域の高齢の方や現役をリタイヤした方が本の活動に関わっていけたら、すごく人生の有効活用だと思います。図書館のお手伝いをしたいと思っている方は沢山いると思います。

夏目議長：そのあたりの人材の掘り起こしについて、図書館でしていることはありますか。

酒井館長：ボランティア講座で現在活動されているボランティアの方へのレベルアップ講座をしています。そのボランティアの方は公立の図書館で活動していただくボランティアの方なので、学校の読み聞かせのボランティアの方とは異なります。

山本委員：十小では地域の方が学校の周りにお花を植えて整備するお手伝いしてくれています。それについては町内会の回覧板に掲載されていました。

酒井館長：ボランティアではないのですが、読み聞かせの依頼があれば、職員が学校に行き行って読み聞かせをするという出前講座を行っています。

三宅委員：区域によってボランティアの仕方が違いますね。区域による違いがあるので活動の上下差がとともあります。そのあたりを取りまとめる部署がないと広がっていかないと思います。個人の仕事量がものすごく多い時代なので、皆仕事の方へ流れてしまう現状があります。女性の方はある程度家庭教育を含めた延長かもしれませんが、男性の方は仕事一辺倒のことが多いですね。社会で仕事をしてきて、その成果を地域で活かそうとする人は意外と少ないです。その辺についても考える必要があると思います。

夏目議長：難しい問題ですね。

須山委員：私はプラッツの登録団体に入っているのですが、活動されている方々はとても活発ですね。年齢層が広く、様々な年代の方が一緒になって色々なことを考えていらっしやいます。

三宅委員：現在のプラッツの運営は、市から委託されて八王子の団体が運営しています。

それまでは市の直轄で運営されていました。雰囲気は変わったと思います。

須山委員：府中市のメール配信で不審者情報や天気などの情報を得ています。図書館のイベントなどもメール配信していただけると、お母さんたちへの広報にかなりの効果があると思います。

三宅委員：登録してあると連絡がきますよね。

須山委員：若い方ですと皆さん登録していますね。

三宅委員：図書館としての情報発信もありますが、文化センターごとの情報も結構ありますよね。

夏目議長：子ども読書活動推進計画についてはパブリックコメントが11月末から12月末に行われ、その時にはホームページに掲載されるということですね。

田邊係長：はい。市のホームページに掲載されます。

夏目議長：またその時にご意見をお寄せいただければ盛り込んでいただけるということですね。

### 3 その他

#### (1) 府中市立図書館一斉休館について

夏目議長：それではその他へ移らせていただきたいと思います。報告事項が2点ですが、事務局からご説明をお願いします。

田邊係長：それでは資料2にあります、府中市立図書館一斉休館についてですが、府中市の図書館管理システムはPFI事業者との15年契約期間の内、5年間ごとにバージョンアップをし、また機器の入替えをして市民サービスの向上を図ることとしています。今年度は10年目にあたります。その関係でシステム更新を行うため、11月19日(日)から11月30日(木)まで全館休館とさせていただきます。この期間はシステムが使用できないため、貸出返却作業を初めとする業務、ホームページも全て休止になります。Webからの検索や予約も一切この期間ができなくなります。ブックポストに関しては市政情報センターも含め各図書館ご利用できるようになっております。返却期限はこの期間を外して返却期限を設定しておりますので、休館日が終わってからの返却でも大丈夫なかたちにはしてお

ります。今回PFI事業者にも早めに周知してましてポスターやホームページは9月5日から、チラシ配布は10月4日から、広報と市のホームページは明日11月1日号で掲載予定になっております。また、市政情報センターですが、開館はしているのですが、図書の引継ぎはできないというかたちにさせていただいております。市内各図書館のご利用者の方から、色々なご意見をいただいておりますので、この休館中に改善ができるところは改善していきたいと考えています。以上となります。

夏目議長：ありがとうございます。今の件について何かご質問はありますか。

山本委員：結構長い休館期間ですが、読み聞かせのボランティアの間では、その期間は学校図書館で借りるようにしましょうというかたちになりましたが、一般の方は2週間全く図書館を利用できないことになりますね。他市図書館の案内についてのパンフレットを置いていただくと、地図を見て家から近いと分かったり、何かのついでに寄ったりできると思います。案内を拡大コピーして掲示してもいいと思います。

田邊係長：休館にあたってやはりそういうご意見もありました。全館周知して、相互利用できるという案内を作成しました。ただその期間に休館となっている図書館もあります。他市図書館のご案内をして、そこが休館だったということがあって利用者の方にご迷惑をお掛けしてしまいます。詳細を確認していただけるように本館の場所やホームページの案内をさせていただいております。

須山委員：この休館期間は昨年もありましたか。

田邊係長：5年に1回なので昨年はありません。

須山委員：図書館はいつでも利用できると思っているので、このような期間があると図書館のありがたみを感じます。

夏目議長：ありがとうございました。

(2) 市政情報センターでの取次状況について

夏目議長：つづいてもう1件をお願いします。

田邊係長：続きまして、資料3の市政情報センターでの取次状況についてご報告させてい

たきます。前回の会議ではル・シーニュ内市政情報センターで取次が始まりますということをお知らせさせていただきました。今回8月1日から開始いたしまして3ヶ月経ちました。8月末の利用状況は記載のとおりです。大分周知されてきたこともありまして、貸出返却ともに8月より9月の方が大分増えてまいりました。10月30日現在、情報センターで受取を希望している資料の冊数は1,500冊を超えています。今月は1日30冊から40冊を毎日市政情報センターへ運搬している状態です。年代別にしますと40代が1番多く、それから50代、続いて30代の方が多く利用されています。パソコン、スマホからのWeb予約を利用されている方がほとんどで、図書館にきて本を選ぶというよりは、もう本が決まっています予約して借りにくるだけという方が利用されているようです。利用者の方については固定で決まった方が多くなってきたかなという印象があります。宮町図書館は17時で閉館になっていますので、19時30分まで受取れる市政情報センターへ利用が流れるかなという予想はあったのですが、前年度の同時期の利用の比較をしますと、8月、9月とも前年度の利用よりも宮町は多くなっています。市政情報センターが始まったから宮町図書館は少なくなったということはありませんでした。当初、色々なトラブルが発生するのではないかと考えていましたが、3ヶ月間特に問題なく運営できております。以上です。

夏目議長：この件に関してなにかご意見ありますか。

加藤委員：府中市の図書サービスは他の市町村と比べて、とても充実していて本当にありがたいです。未だに17時には全部の図書館が閉まっているというところもありますし、1冊ずつバーコードを読んで貸出処理をしているところもあります。長時間夜遅くまで開館されているので、府中に住んでいることのメリットの1つだと思います。

夏目議長：市政情報センターの取次は、やはり働きに行っている世代が上手く利用されているのではないかと思います。では議題は以上です。本日の会議はこれで終わりとさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

# 平成29年度第2回府中市立図書館サービス検討会議

平成29年10月31日(火) 午前10時～  
府中市立中央図書館会議室

## 1 資料確認

## 2 議 題

(1) 第4期子ども読書活動推進計画(案)について

## 3 その他

(1) 府中市立図書館一斉休館について

(2) 市政情報センターでの取次状況について

閉 会

## <配布資料>

資料1 第4期子ども読書活動推進計画(案)

資料2 府中市立図書館一斉休館について

資料3 市政情報センターでの取次状況について

## 府中市立図書館一斉休館について

このことについて、次のとおり府中市立図書館全館一斉休館となります。

### 1 目 的

府中市の図書館管理システムは、P F I 事業者との契約期間 1 5 年間の内、5 年ごとにシステムのバージョンアップをし、市民サービスの向上を図ることとなっています。今年度が 1 0 年目にあたることにより、システム更新を行います。

### 2 休館期間

平成 2 9 年 1 1 月 1 9 日（日）から 1 1 月 3 0 日（木）

### 3 対 象

市内全図書館

### 4 内 容

システムの更新作業  
機器類の入れ替え作業  
配架資料の変更作業  
その他、通常できないようなレイアウト変更等

この期間、資料の予約、貸出、返却等一切の処理ができなくなります。図書資料の返却については、市政情報センターを含め、ブックポストはご利用いただけます。

### 5 周知方法

9 月 5 日～ 図書館ホームページ、館内ポスター  
1 0 月 4 日～ チラシ  
1 1 月 1 日～ 広報ふちゅう、市ホームページ  
府中市メール配信サービス、図書館予約連絡メール

市政情報センターでの取次状況について

8月1日から府中駅南口再開発ビル「ル・シーニュ」5階、市政情報センターにおいて、図書の返却と予約した図書の受取りを開始いたしました。

1 取次対象資料

府中市立図書館所蔵の図書及び雑誌

2 窓口業務時間

平日 午前8時30分から午後7時30分

土日祝 午前8時30分から午後6時

3 ブックポスト開設時間

窓口業務時間終了後 午後10時まで

4 8月、9月の利用状況

【貸出利用統計】

	8 月	9 月
利用者数	249人	431人
返却冊数	620冊	1,031冊
貸出冊数	428冊	823冊
割当数	567冊	906冊
期限切れ及びキャンセル	42冊	61冊

【年齢別利用者統計】

	8 月	9 月
0～6	9人	4人
7～12	1人	0人
13～15	1人	1人
16～18	3人	1人
19～22	3人	8人
23～29	10人	23人
30～39	44人	89人
40～49	81人	132人
50～59	69人	110人
60～69	21人	38人
70～79	5人	14人
80～89	2人	11人
合 計	249人	431人